



1年^{ねん}はどうして12^{げつ}か月なの

月の満ち欠けを12^{かい}回^{かえ}くり返すと1年^{ねん}たつ

1年^{ねん}という時間^{じかん}は、地球^{ちきゅう}が太陽^{たいよう}の周り^{まわ}りを、1回^{かいてん}転^{じかん}する時間^{じかん}です。つまり、地球^{ちきゅう}が太陽^{たいよう}の周り^{まわ}りを回^{まわ}って、もとの位置^{いち}にもどるのにかかる時間^{じかん}が、1年^{ねん}というわけです。

この1年^{ねん}を、なぜ、12^わに分^{わけ}けたのでしょうか。それは、月の満ち欠け^{つきみかけ}と関係^{かんけい}しています。月^{つき}には、1日^{いちじゅう}中^{つき}、月^{つき}が見^みえない新月^{しんげつ}という時期^{じき}があります。それから、だんだん^み見えるようになり、三日^{みかづき}月^{つき}から半月^{はんげつ}に、そして満月^{まんげつ}になります。ここまでで、およそ15日^{いちにち}かかります。そのあと、満月^{まんげつ}をすぎると月^{つき}はまた欠^かけていき、半月^{はんげつ}から二十六夜^やの月^{つき}になって、最後^{さいご}にまた、新月^{しんげつ}にもどります。ここまでで、また、15日^{いちにち}ほどかかります。

つまり、月^{つき}は、新月^{しんげつ}から次の新月^{しんげつ}になるまでに、約30日^{やくにち}かかるというわけです。昔^{むかし}の人は、月^{つき}が12回^{かい}満ち欠け^{みかけ}をくり返^{かえ}すと、また、同じ季節^{おなきせつ}にもどってくる、つまり、1年^{ねん}たつことを知^しっていました。1年^{ねん}が12^{くぎ}に区切^{くぎ}られるのは、このためだったのです。

カレンダーに「月^{つき}」という字^じを使うわけ

わたしたちは、いまでも「1月^{がつ}」「2月^{がつ}」「12月^{がつ}」というように、すべて「月^{つき}」という漢字^{かんじ}を使って、何月^{ながつ}であるかをあらわ^{あらわ}しますね。1か月の区切り^{げつくぎ}が、夜空^{よぞら}にかがやく月^{つき}をもとに決められたからなのです。(監修・田代 脩)

